

長談  
学対

# 産業・行政・大学の連携で 地方から国を興す

衆議院議員

富岡 勉

TOMIOKA Tsutomu

×

長崎大学長

河野 茂

KOHNO Shigeru

学長対談の第二弾として、富岡勉衆議院議員をお迎えしました。司会進行は山口純哉編集長です。

実は同期だった二人  
お互い刺激し合う仲

山口編集長（以下、山口） 富岡議員はベトナム視察から帰国した足で、お越しいただき、ありがとうございます。今回はお二人に、現在の役職を目指した時の志、国や長崎の将来へ

入学してからは面白さを感じ、外科医を目指しました。卒業して病理学を学ぶ中で河野茂学長と同期となり、それ以来のつきあいです。学長は当時からアクティビティが活発で……（笑）。

河野学長（以下、学長） 笑っちゃいます（笑）。

富岡 私にはない面をたくさん持っておられた。学生時代から頻繁に海外にも出ていて、私にとって貴重な出会いでした。

学長 富岡議員は外科を目指していて、ガリ勉タイプではないけれど非常に熱心で人柄が良いので、先輩・後輩からも慕われていましたね。

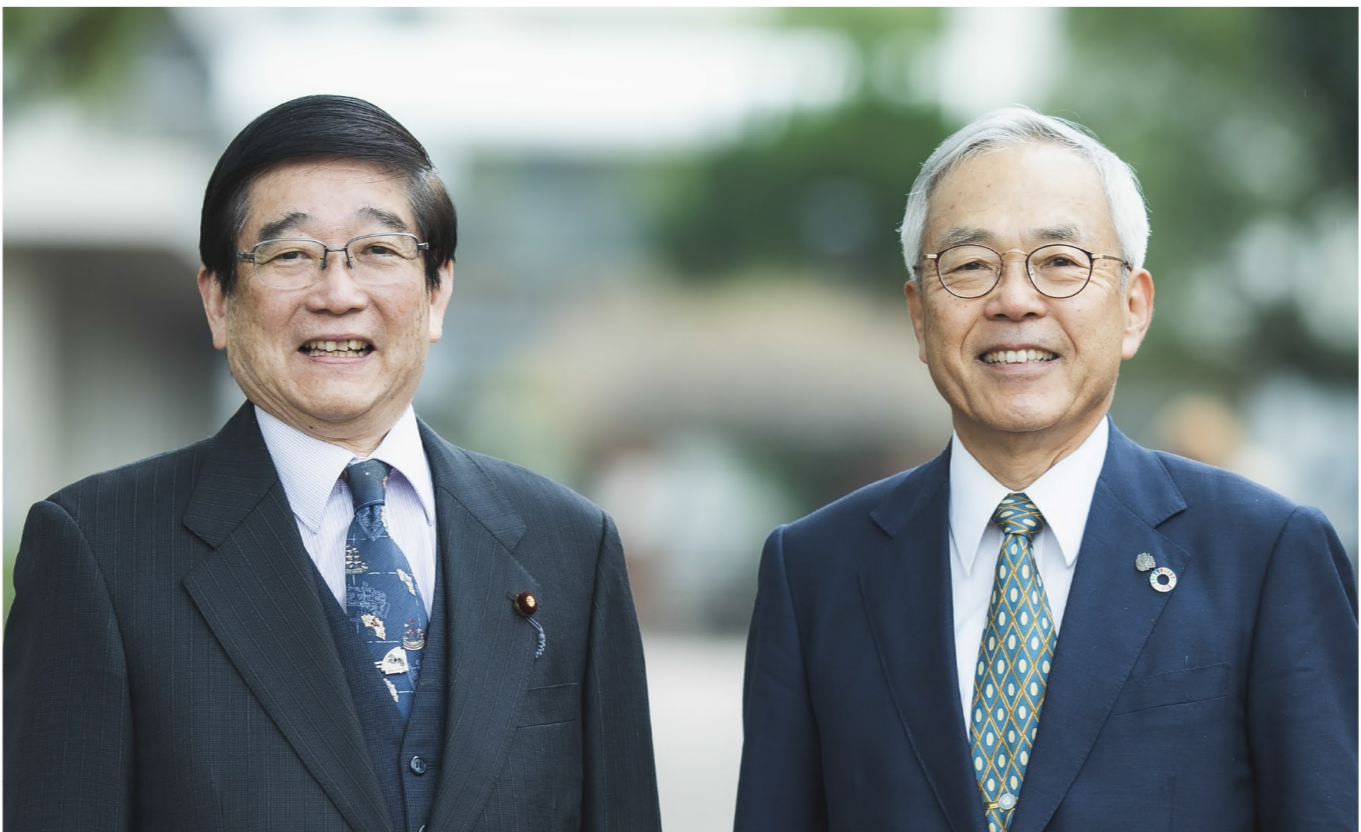
山口 医師となって活躍する中で、どうして政治の道に進もうと思われ

コーディネーター／本誌編集長

山口純哉



YAMAGUCHI Junya



とみおか つとむ  
1948年生まれ。1976年長崎大学医学部卒業。長崎大学医学部第2外科助教授、同医療技術短期大学部教授を経て、1999年自由民主党より立候補し当選、長崎県議会議員となる。2005年衆議院議員選挙初当選、以来現在4期目。文部科学副大臣兼内閣府副大臣を経て、2019年より自由民主党政務調査会副会長。

こうの しげる  
1950年生まれ。1974年長崎大学医学部卒業。長崎大学助手、ニューメキシコ州立大学医学部研究講師を経て、1996年長崎大学医学部教授となる。2009年同大学理事、大学病院長を歴任後、2014年理事・副学長に就任。2017年より現職。

たのでしょうか。  
富岡 当時、土山秀夫先生が病理学におられ、学長になられました。田中健蔵先生も九州大学総長を務め、その後県知事選に出られた。先輩方を見ていて、自分もいずれ選挙に挑戦しようと思っていました。社会活動を通して世の中を見ていると、医療も経済も結局は政治が鍵を握ります。結婚した当初、妻に「いざ政治の世界に入る」と語り、彼女は「何を言っているんだ、この人は」と（笑）。その後、長崎大学医療技術短期大学部看護学科（現・長崎

大学医学部保健学科）の教授になり、医療、看護、介護の現実を目の当たりにして、これから日本は少子高齢化が急速に進むことを知りました。政治の世界に行くなら今だと。ちょうど介護保険制度がスタートする前年の一九九九年で、五十歳でした。  
学長 アカデミアの道に進むだろうと思っていた同期生が、突然「県会議員になる」と言い出したものだから、私も大変驚きました。しかも、大方の悲観的な予想を裏切って当選しましたからね。こうと決めたらそ

の取り組みなどを伺います。まず、長崎大学医学部をご卒業後、医師となり国会議員としてご活躍の富岡先生に、医師を志した理由からお聞かせください。  
富岡議員（以下、富岡） わりあい単純なのですが、父親が内科医で兄二人も医師になっており、末っ子の私は他の職業を思い付かなかったのです。しかし、学生運動で大学が混乱していたこともあって浪人した頃は、「他の職業になるか」と迷った時期もありました。長崎大学の医学部の道を邁進していく人です。  
山口 そうだったんですね。一方、学長はどうして医師の道へ？  
学長 私は祖父が東彼杵郡波佐見町で開業医をしていましたが、誰も跡を継がなかったので、私が医師になって医院の再興をと考えていました。富岡先生と病理学を学んでいた時は、英語が大好きで毎年夏休みには二週間休んで海外に行っていたので、教授からは嫌われていました（笑）。私のせいで後輩たちは夏休みが一週間になり、みんなから恨まれました。  
富岡 私はすっかり河野先生の影響を受けましたね。「そうか、論文を早く仕上げ海外に行くべきなんだ」と。  
学長 留学先も自分で探して二年間アメリカに留学しました。帰国して開業医になろうとしていた時、大学に戻れと声が掛かりました。当時の大学は厳しい徒弟制度で朝から晩まで診療で、学会の準備などもあって本当に大忙し。しかし、教育システムはしっかりしていました。先輩たちから「大学に戻ってこい。やってみてだめならすぐ外に出すから」と



上手にだまされた(笑)。自分のやりたいことを貫いて政治家になった岡先生と、人に請われてふらふらと路線変更した私。いろいろな生き方がありますね。

**山口** 学長になる時も大きな転換点だったのでは？

**学長** その時は、実は家族が深刻な病気で、息子からも立候補を猛反対されたのですが、せっかく大学のために働くチャンスがあるからやってみようと思えました。今となってはそれでよかったです。

**山口** お話を伺っていると、自分で決めようが人から言われようが、その道を一生懸命やっていたら結果はついてくるということですね。

### 新学部やRECN Aなど 長崎大学の動きに期待

**山口** 次に、大きな視点から今の日本の現状や将来について、富岡先生にお伺いします。

**富岡** 人口減少や少子高齢化をどうにかしたいという思いが政治家になった動機だったので、私は常にそ

は他にはない素晴らしい活動です。

**学長** ありがとうございます。

RECN Aは、核兵器廃絶のための戦略について、英文による本格的なオンラインジャーナルを発信し、アカデミアの立場から政策を提言しています。多文化社会学研究科の修士・博士課程にもRECN Aの教員が所属しています。その他、原爆後障害医療研究所では被爆者医療研究を生かし、チェルノブイリや福島での積極的な医療支援の実績を挙げ、高く評価されています。

**富岡** これらの動きは他の都市にはできません。今、世界の核軍縮は行

れを政策の中心に据えています。医療を中心として看護や介護の専門家という大前提がありますが、加えて経済や観光にも目を向けています。選挙区には行政に対するすべての課題があり、解決策を国の政策として全国に広げたい。つまり地方から国

を興すということ。また、よく産学官や政官財と言いますが、大学だけで人材育成や人材供給はできません。それぞれをつなぎ、情報交換をして政策に落とし込むのが私の役回りです。

**山口** 議員になられた頃、私の研究室にもお越しになり、経済のディスカッションを行いましたね。その後、地方創生が叫ばれ始めました。

**富岡** 今、いくつか具体的な動きがあります。例えば、長崎は実は新生児難聴の治療では先進的な実績を持っており、この事例は全国に広げたい。また、長崎市では陸上での魚の養殖を実装しており、これは海洋汚染対策としても有効です。そして、長崎県にはここ数年でIT企業が集まり始めました。これは、長崎県立大学に情報セキュリティ学科ができ、佐世保工業高等専門学校が情報セキュリティ人材の演習拠点に選

き詰まっております。今が踏ん張りどころです。政治家というのは具体的に「なるほど、そのとおりだ!」と思わないと動きません。念仏のように「平和、平和」と唱えていても予算一つ動かない。そういう意味では長崎大学に期待しています。

### 小さな一歩が大きな動きに 交流の受け皿としての大学

**山口** 最後にお二人から、高校生の皆さんに向けてメッセージをいただきますか。

## 人生百年時代だからこそ 一生学び続けられるものを

KOHNO Shigeru



## 長崎で成功した事例を 国の政策として広げたい

TOMIOKA Tsutomu



ばれ、長崎大学には情報データ科学部が誕生するという、「学」が動いたことが大きい。まさに産官学の連携によって実現した良い例です。

**山口** 本誌が発行される四月には、待望の情報データ科学部が誕生しますね。

**富岡** 期待していますよ。今はびつたりのタイミングで、遅れるとインパクトがなくなります。

**学長** 長崎大学の情報データ科学部は、インフォメーションサイエンスとデータサイエンスの両輪がそろっているのが最大の特徴です。ハードもソフトも学べ、ビッグデータも統

**富岡** 日本の人口減少問題を考える時、常に私の頭にあるのが学生と観光客です。外から来た人はまったく違う視点で日本の魅力を発見してくれます。<sup>\*</sup>「さくらサイエンスプラン」のように海外から来てもらい、見てもらい、住んでもらえるような受け皿づくりは重要です。逆に、学生さんには海外に出て、物の見方や考え方を学んで日本に持ち帰っていただきたい。いろいろな機会を捉えて、具体的な行動を起こす。その小さな一歩がやがて大きな動きになるとい

うことを、若い皆さんにお伝えしたいです。

**山口** 人の交流の受け皿としての大学の役割も大きいですね。学長はいかがでしょう。

**学長** 今の高校生が社会に出る頃は、今とは様相が違うでしょう。その学びが将来の社会で役立つのかどうかを念頭に置くのは大切です。私は「プラネタリーヘルス」地球の健康を一つのベクトルとして考えています。地球上にはいろいろな問題がありますね。戦争や宗教上の対立、自然環境問題、ある地域における人口減少……こういった問題を解決し

計学的に解析できる日本で数少ない学部です。データサイエンスの保全のためには情報セキュリティが必須で、そちらは県立大学にサポートしていただく。各大学が持つ強みを大学間で連携することもできます。

**富岡** もう一つ私が期待しているのは、長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECN A)の存在です。これ



て地球の健康を取り戻すために、長崎大学では十の学部が一丸となって解決策を探ろうとしています。今、大学を偏差値で選んでいる高校生もいるかと思いますが、もう少し大きな視点に立ってほしい。人生百年時代、社会に出ても一生学び続けるということを意識して、大学選びをしていただきたいですね。

**山口** 今日は長崎から地球全体のことまで、さまざまなスケールのお話をさせていただきました。富岡先生、ありがとうございます。

<sup>\*</sup>さくらサイエンスプラン  
科学技術振興機構(JST)が行う日本・アジア青少年サイエンス交流事業。産学官の連携により、アジアなどの若者を日本に招へいし、日本の科学技術を体験してもらうもの。二〇一四年にスタートし、六年間で約三万人の若者の招へいが実現しました。